江ノ島電鉄株式会社
京福電気鉄道株式会社

2024 年 3 月 19 日

Press Release

江ノ電・嵐電 姉妹提携15周年記念
共同 PR 事業「あたらしいコトみつけよう」スタート！
第1回「喧騒の先の、静けさへ ～ 円覚寺舎利殿・鹿王院舎利殿」

江ノ島電鉄株式会社（本社：神奈川県藤沢市、社長：楢井進）と京福電気鉄道株式会社（本社：京都市中京区、社長：大塚憲郎）は、それぞれの鉄軌道路線である江ノ島電鉄線と京福電気鉄道嵐山線（「嵐電」（らんでん））との間に２００９年１０月１４日、「江ノ電・嵐電姉妹提携」を締結、本年１０月に提携１５周年を迎えます。

両社はこれを記念し、それぞれの路線がある東西の古都である鎌倉と京都の観光施設等を１枚のポスター、チラシで紹介し、新しい“こと”を見つけていく共同ＰＲ事業「あたらしいコトみつけよう」をスタートします。

▲「あたらしいコトみつけよう」第１回「円覚寺舎利殿・鹿王院舎利殿パンフレット」

共同 PR の第１回目は、鎌倉の円覚寺（えんがくじ）と京都の鹿王院（ろくおういん）。観光集積地域のそばにありながら、山門をくぐると同時に、周囲と全く異なる凛とした静寂の空気に包まれる舎利殿（しゃりでん）を紹介するポスター、チラシを両院の協力を得て、制作しました。

【背景】

鎌倉と京都は、政治・経済・文化など、長い歴史の中で連携・交流し、また時に東西政権で激しく争うなど、深いつながりを持つ東西の古都です。近年は急増する観光需要の中、特定のエリア・時間帯への極端な観光集中など、共通するオーバーツーリズムの課題も抱えています。

両社は同じ課題に取り組む地域の中で、観光路線・生活路線双方の顔を持つ事業者として、オーソドックスな「古都の観光」に加え、隠れた名所、新たな視点で沿線を観光体験ができる施設や場所などを訪れる旅行者に提案し、共同で PR を行い、回遊・分散化による観光集中の緩和を促進、住民生活と共存する持続可能な観光の実現を目指します。

【歴史的文化価値】

舎利殿とは、お釈迦様の遺骨（舎利）などを納める施設で、両寺院ではお釈迦様の歯「仏牙舎利」（ぶつげしゃり）を納めています。この仏牙舎利は、鎌倉幕府第３代将軍の源実朝が宋から招来したもので、もともと円覚寺に納められていたものの一部を後光厳（ごこうごん）天皇が京都に献じさせ、これを下賜された普明国師（ふみょうこくし）が鹿王院に納めました。

円覚寺舎利殿は国宝で通常非公開。少し離れたところから外観をご覧いただくことができます。

鹿王院舎利殿は内部の拝観が可能、２０２３年秋に２６０年ぶりに全面修復が落慶しました。

歴史的な重要文化財を有する両寺院の協力を得ながら、江ノ電・嵐電姉妹提携１５周年記念として、鎌倉と京都という古都を繋ぐ架け橋として分散観光を促す新しい魅力を PR。

後援には鎌倉市観光協会と京都市観光協会に協力を得、古都鎌倉と京都の地域課題解決とともに、新たな関係を広げ、多くの方に参画していただける観光連携施策を打ち出していきます。

▲共同 PR 事業　ロゴイメージ

【江ノ電・嵐電共同 PR 事業「あたらしいコトみつけよう」】

第１回　「喧騒の先の、静けさへ　～　円覚寺舎利殿・鹿王院舎利殿」

〈事業主体〉　江ノ島電鉄株式会社　京福電気鉄道株式会社

〈特別協力〉　瑞鹿山円覚寺　覚雄山鹿王院

〈後援〉　公益社団法人鎌倉市観光協会　公益社団法人京都市観光協会

〈期間〉　2024 年３月～６月末ごろ

〈掲出場所〉　江ノ電　京福　沿線　駅やサイネージ

第２回以降は２０２４年夏から順次実施、２０２４年度中に第４回まで制作・公開の予定です。

以上

鎌倉　円覚寺舎利殿

あたらしい
コト
みつけよう

喧騒の先の、静けさへ

京都　鹿王院舎利殿

〈特別協力〉

瑞鹿山　円覚寺
鎌倉市山ノ内 409

覚雄山　鹿王院
京都市右京区嵯峨北堀町 24

〈制作〉

江電　叡電

〈後援〉

鎌倉市観光協会
Kamakura City Tourist Association

京都市観光協会
KYOTO CITY
TOURISM ASSOCIATION

実朝の想い　～源実朝が招来した仏牙舎利は円覚寺と鹿王院へ～

鎌倉幕府第３代将軍の源実朝（みなもとのさねとも）は歌人としても知られ、家集として「金槐和歌集」があり、また「藤原定家（ふじわらのさだいえ / ふじわらのていか）」との交流から、その作品は定家編纂の「小倉百人一首」にも収められています。また実朝は、鎌倉時代初期に宋から本格的に日本に伝わった禅宗への関心から、晩年、宋の能仁寺から仏牙舎利（ぶつげしゃり。「お釈迦様の歯」）を招来しています。禅とその文化はまず鎌倉で開花し、京都をはじめ全国に広まりました。実朝が招来した仏牙舎利は鎌倉・円覚寺の舎利殿に収められています。そして後光厳天皇がその一部を京都に献じさせ、1374 年に鹿王院開山である普明国師に下賜されました。その仏牙舎利は現在、鹿王院の舎利殿に安置されています。
800 年の時を経て、実朝の想いが、東の古都・鎌倉と西の古都・京都に息づいています。

瑞鹿山円覚寺

桜と三（山）門

臨済宗円覚寺派大本山。
鎌倉幕府と朝廷によって定められた「鎌倉五山」の二位に列される大寺院。
1282 年（弘安５年）
鎌倉幕府第８代執権・北条時宗が元寇で亡くなった双方の戦没者を弔うため、中国の僧侶・無学祖元（むがくそげん）を招いて建立されました。
境内の塔頭の一つ、正続院には室町時代中期頃の建立とされている舎利殿があり、現存する日本最古の禅宗様の建築として国宝に指定されています。通常は非公開ですが、年に数回の特定日に公開されます。

円覚寺三（山）門　～静寂の入口～

総門から入門すると見えてくるのが三（山）門です。この門をくぐることで煩悩を取り払い、さとりの境地へ至るとされています。
1894 年（明治 27 年）夏目漱石は円覚寺で参禅し、この時の経験をもとに小説「門」を執筆しました。主人公の宗助が俗世界との区別を自覚した静寂な世界がここにはあります。

【アクセス】

JR 横須賀線　「北鎌倉」駅、徒歩１分
江ノ電バス「北鎌倉駅」バス停下車、徒歩１分

覚雄山鹿王院

紅葉の参道

室町幕府３代将軍・足利義満が、自らの延命長寿を願い、鎌倉円覚寺にも住した夢窓疎石（むそうそせき）の甥で後継者とされていた普明国師（ふみょうこくし）に命じ、1380 年に建立させた宝幢禅寺（ほうどうぜんじ）の開山塔です。宝幢禅寺は応仁の乱で焼失してしまいましたが、鹿王院のみ江戸時代中期に再興され、今に至っています。

鹿王院舎利殿　～260 年ぶりの修復落慶～

嵐山を借景とし、源実朝・円覚寺ゆかりの仏牙舎利を収める現在の鹿王院舎利殿は、江戸時代中期の 1763 年に移築・建立された、禅宗寺院の建築様式「禅宗様」を基調とした建物です。舎利殿が今の場所に移築されて 258 年目となる 2021 年から始まった初の大規模修復が 2023 年 10 月に落慶しました。

【アクセス】

嵐電（京福電車）「鹿王院」駅下車、徒歩３分
JR 嵯峨野線「嵯峨嵐山」駅下車、徒歩７分
京都バス「下嵯峨」バス停下車、徒歩３分

あたらしいコトみつけよう

江ノ電 × 嵐電　共同 PR 事業「あたらしいコトみつけよう」
鎌倉・京都。東西の“古都”で六感をとぎすまし、あたらしい“コト”をたくさん見つけてみませんか。
〈2024 年 10 月 14 日に姉妹提携 15 周年を迎える江ノ電・嵐電は、
鎌倉・京都の魅力の発信と持続可能な観光の実現を目指します〉